

連載している大阪工業大学の綾教授のコラムは  
残念ながら休講です。  
その代わり池田先生にご登場いただきました！

## 水辺の生物多様性



人を自然に近づける川いい会  
参謀総長 池田 哲哉

水に関わる環境を考えた場合、例えば川は、山奥から湧き出した一滴の滴から始まり、最初は細々としたか弱い流れですが、周辺の沢水と合わさりながら徐々に太く力強い流れとなり、急勾配の山肌を削りながら、深い山間の谷から平野部に流れ出します。その後、徐々に川幅も広がり、瀬・淵・瀬が連続し、河畔林や礫・砂河原、ワンド・池などが存在する、河川の中で最も多様な環境を有する中流域となります。そして川はさらに幅を広げ、流れも緩やかになり、ヨシ原、中州、干潟といった下流環境を経て海へと繋がるのです。全ての生物にとってかけがえのない“命の源”ともいえる“水”のあるところ、すなわち『水辺』は、様々な生き物が集まり、生息・生育の場とし、移動・休息などにも利用する、つまり、生きるために無くてはならない場所なのです。

水辺の様子を思い描くと、水際には岩や礫、砂、泥などそれぞれの物理環境に応じた水を好む植物が生えています。この植物帯は、陸上昆虫の棲み家となり、これを餌とする両生類・爬虫類が集まってきます。さらに、この小動物たちを餌とする哺乳類や鳥類も集まってきます。一方水中では、水を必要とする水生植物が繁茂し、水生昆虫や底生動物が生息し、それらを餌とする魚介類が生活しています。さらに水鳥は、水草や魚を餌とするため、水中をも利用しているのです。また『水辺』の生物同士の関わり合いは、「食う・食われる」の食物連鎖の関係に加え、共生・寄生・競合といった関係を通じて複雑な生態網を形成し、自然の恵みの上に成立しています。

『水辺』は、多様な自然環境に応じて多様な生物が“生きる場所”として多面的な機能を発揮し、さらに視野を広げると、水辺から河川敷・水辺林～後背地～田畑～里山等々その連続する生物回廊は、多くの生物を育む場を提供しているのです。

淀川自然

2014年11月号

No.10

画報

淀川水系の生物多様性を  
見る・知る・楽しむ  
生きもののシグナル

YODOGAWA  
SHIZEN GAHO

## 水辺の博物誌



愛嬌ある里山の隣人

ホンダタヌキ *Nyctereutes procyonoides viverrinus*

淀川の支流、河原や人里で夜間に活発に活動するタヌキ。体型はキツネとは異なって、ずんぐりしています。これは原始的なイヌ科の特徴を残しているからだそうです。木の実や小動物などなんでも食べる雑食性で、生活圏が人と近いため、夏の子育ての時期には餌を求めて人家に近づくこともあります。地域によってはアナグマと同一視され「ムジナ」と称され、馴染み深い動物ですが、近年は人里で観られる機会が減少しています。（画/小村一也）



来た・見た・聞いた

## 淀川雑記帳



近年、集中豪雨による内水被害が頻発している。今年も各地で大規模な被害もたされた。これまでに河川レンジャーは地域住民への土嚢づくり体験などに取り組んできたが、さらに活性化させるため、11月中に全3回の「防災・減災に向けた研修」を開催。

淀川河川事務所は、河川整備計画で目標とする洪水に対して安全に流下させる治水対策を実施しているが、今後は河川整備と併行して、住民自身が取り組む減災活動や

避難体制の確立が重要となる。我々レンジャーは、これまでも地域ニーズに合わせた様々な活動を展開しているが、地域の防災に焦点を当てた取り組みがますます増加するであろう。いい川づくりの実験として、ある川のメンテナンスを行っているが、去年も今年も大雨に泣かされた。自然災害への備え。どこまで頭を突っ込めるかわからないが、できる限りやってみようと思う。

（編集長・石山郁慧）

河川と環境の法律相談所

legal advice



野良猫への餌やり

人を自然に近づける川いい会 弁護士 藤原 武士

公園に野良猫のために餌が置かれていることがあります。野良猫の餌やりを直接禁止する法律はありませんが、東京都荒川区のように、野良猫に対する餌やりを規制する条例を制定している自治体もあります。大阪市でも、野良猫への餌やりを禁止する条例を制定する議論もあったようですが、制定にいたっていません。条例がないので、誰でも、自由に餌をやってもよいのかといえば違います。公園には管理権者がいますので、管理権者が餌やりを禁止する以上、公園で野良猫の餌やりは禁止されています。野良猫の餌やりが原因でトラブルになっている例は多いのではないのでしょうか。動物愛護の視点、地域猫制度など、野良猫の問題はこれからも議論をしていかないといけない問題です。



デザイン監修：NPO法人nature works 泉野幸彦・ありさだあきよ  
イラスト監修：NPO法人nature works 小村一也  
取材協力：人を自然に近づける川いい会  
発行支援：国土交通省 淀川河川事務所

バックナンバーは、<http://npo-natureworks.net/> の「無料の資料」からダウンロードできます。

発行責任者 淀川管内河川レンジャー・石山郁慧